



那智の扇祭り 国指定重要無形民俗文化財

熊野の神々が一年に一度、もともと祀られていた御滝本に里帰りをするという神事で、熊野那智大社の例大祭。通称「那智の火祭」とも呼ばれ、本社神前で大前の儀やユネスコ無形文化遺産の田楽などが奉納された後、滝の姿を表した十二体の扇神輿を十二本の大松明でお迎えし、その炎で清められながら那智大滝前まで向かう荘厳な祭り。

熊野那智大社
住所 / 東牟婁郡那智勝浦町那智山1
電話 / 0735-55-0321



御燈祭(おとうまつり) 国指定重要無形民俗文化財

毎年2月6日夜に行われる熊野速玉大社の摂社、神倉神社の例祭で、その歴史は古く、全国で行われる火祭の中でも最も勇壮だともいわれる。ゴトビキ岩前で千数百本の松明に点火され、上り子たちが我先にと、身も凍むような538段の急な石段を駆け降りる。上り子たちは松明に御神火を灯し、大切に家に持ち帰り神様をお迎えした。

熊野速玉大社
住所 / 新宮市新宮1 電話 / 0735-22-2533



火を点けられる前の大松明。



高さ6メートルにもなる滝の姿を表した十二体の扇神輿(おうぎみこし)。大社本殿前で熊野の御祭神十二神への献酬、祝詞奏上、玉串奉納等、神事が斎行される。大松明は重さ約50キログラムで別宮・飛瀧神社の参道を清めながら扇神輿を迎える。



「鈴振り」が持つ鈴。この鈴を振りながら歩く。



丹生(にう)祭 県指定無形民俗文化財

丹生神社で毎年10月に行われる例祭で、もとは4つの神社の別々の祭りであった。和佐地区の笑い祭は特に有名で、道化役の「鈴振り」が鈴を振りながら「笑え、笑え」と練り歩く奇祭である。

丹生神社
住所 / 日高郡日高川町江川1956
電話 / 0738-53-1125

願い事が書かれた松明は一本一本手作り。



餅まき

祭りや上棟式などで集まった人々に餅を投げ配るイベントで、祭りはもちろん、地域の行事でも欠かせない。神社などでは初午や節分で行われることもある。西日本を中心に伝統はあるが、和歌山県は特に盛んだといわれている。



和歌祭

紀州東照宮の大祭、和歌祭の始まりは頼宣公が紀州に入国してまもなくの元和8(1622)年のこと。別名、紀州の国祭、権現祭とも呼ばれる。大神輿を担ぎ108段の急な侍坂を下り、紀州人の心意気を表現した風流芸能の行列とともに練り歩く。江戸初期の東照宮祭礼の姿を残す勇壮な祭りで、毎年5月第2日曜に行われる。

紀州東照宮
住所 / 和歌山市和歌浦西2-1-20
電話 / 073-444-0808

数百年以上受け継がれる祭り。親から子へ、子から孫へとその想いは語り継がれる。神聖であり、高揚感を伴う地域の喜びであり、誇りである。祭りを見て感じるのは、紀州人の心の軌跡である。

受け継がれる地域の絆 (mind Tracking)

祭りで使われる獅子頭。



木ノ本の獅子舞 県指定無形民俗文化財

地上約5mのだんじりの上に組まれた青竹の舞台で笛や太鼓、鉦の音に合わせて演じる有名な舞。獅子が谷底に蹴落とした我が子が、這い上がってくる姿を待ちながら谷底をのぞく様子を描き、500年以上の歴史を誇る。

木本八幡宮
住所 / 和歌山市西庄1 電話 / 073-451-5915



粉河祭 県指定無形民俗文化財

毎年7月最終土曜日に行われる西国三十三所の第三番札所粉河寺の鎮守である粉河産土神社の祭りで、始まりは平安末期といわれる。本祭は甲冑武者や大団扇、獅子舞などの行列が続き、宵祭は各町の意匠を凝らした勇壮なだんじり運行、餅花飾りと提灯に火が灯り輝く。

粉河祭保存会(紀の川市商工観光課)
電話 / 0736-77-0843

